

[023]雅俗表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7434531>

出版情報：雅俗. 23, 2024-07-15. 雅俗の会
バージョン：
権利関係：



【投稿規定】

『雅俗』は、同人のみならず、購読会員の方も投稿できます（ただし、原稿の種類・投稿回数などに制限もあります。下記「執筆資格」を御覧下さい）。

■締切 令和七年二月二十八日（必着）

■書式

- ・ 論考および研究ノートは、図表分をふくめ、二四〇〇〇字（四百字詰原稿用紙換算で六〇枚まで）とする。
- ・ 本文は、A4用紙横置きに、縦書き四〇字×四〇行で印字する。
- ・ 引用は、本文より二字下げとし、前後に空白の行を入れない。
- ・ 注は、本文より一字下げで、本文末にまとめる。
- ・ 注の位置は、本文中に【注1】【注2】の書式で指定する。
- ・ 図表は挿入位置を明確に指定する。

■送付先

原稿は、電子データを期日までに事務局へ送付する（メール添付で可）。図版などがある場合、補足的に郵送を利用してよい。

■査読

原稿は、編集委員会の査読を経たうえで採否を決定し、後日投稿者に連絡する。原稿の返却はしない。

■電子版の公開

- ・ 掲載された内容は、後日、九州大学附属図書館リポジトリ（QIR）にて、電子版を公開する。公開は、同人・会員の利益に鑑み、当該号の次号が発刊された時点以後、あるいは当該号発刊から二年が経過した時点以後に行うものとする。

・ なお、図版等の公開の責任は著者が負うものとし、当会は公開によって生じる問題に関して、法的責任を負わない。非公開希望の図版等がある場合は、部分的にマスキング処理などを施すので、事前に申し出ること。

【入会案内】

雅俗の会にご入会を希望される方は、下記の事項をご確認のうえ、事務局へご連絡ください。

■会員区分および年会費

- ・ 同人（本会の維持・発展を担う人） 四〇〇〇円
- ・ 購読会員（会誌『雅俗』を購読する人） 二〇〇〇円

■執筆資格

区 分		雅 俗		雅俗研究叢書	
同 人	購 読 会 員	投 稿	連 載	配 付 部 数	配 付 部 数
○	○※	×	○	2部	2部
×	×	1部	×	1部	1部

※ 購読会員の投稿は、論考・研究ノートのみとする。

※本号執筆者一覧（掲載順）

井上泰至	防衛大学校
磯部 敦	奈良女子大学
中尾友香梨・中尾健一郎	佐賀大学・熊本大学
亀井 森	鹿児島大学
井上敏幸	佐賀大学（名）
殷 曉星	広島大学
天野聡一	早稲田大学
川平敏文	九州大学
白石良夫	元・佐賀大学
丸井貴史	専修大学
飯倉洋一	大阪大学（名）
山田和人	同志社大学（名）
吉田 宰	尾道市立大学

■同人一覧

天野 聡一	飯倉 洋一	池澤 一郎
磯部 敦	板坂 耀子	井上 敏幸
入口 敦志	岩井 眞實	位田 絵美
王 自強	大久保順子	大島 明秀
大庭 卓也	岡田万里子	尾崎 千佳
樫澤 葉子	賈 思敏	柏崎 順子
勝又 基	加藤 弓枝	神永 暁
亀井 森	川平 敏文	神作 研一
菊池 庸介	ロバート キャンベル	
吉良 史明	工藤 俊玄	久保田啓一
琴 榮辰	合山林太郎	河野 理菜
坂本 絢美	下内 大輔	白石 良夫
白瀬 浩司	進藤 康子	園田 豊
高杉 志緒	高橋 昌彦	高山 大毅
田中 道雄	田邊菜穂子	陳 笑薇
中森 康之	中山 成一	丹羽 謙治
沼尻 利通	野尻 萌果	服部 仁
花田富二夫	浜田 泰彦	伴野 英一
菱岡 憲司	平岡 隆二	平山 聖悟
廣瀬千紗子	藤沢 毅	古相 正美
牧野 宏子	松村 美奈	溝田 直己
三ツ松 誠	宮崎 修多	村上 義明
村田 裕司	盛田 帝子	安永 美恵
柳沢 昌紀	山田 洋嗣	吉田 宰
米谷 隆史	劉 楽宇	若木 太一
脇山 真衣		

(五十音順)

■後記

この十年で、研究環境は大きく様変わりした。とりわけ、国文研の主導で約三十万点の原本画像がネットで閲覧できるようになったのは大きい。聞けば、次の十年では二十数万点にのぼるデジタルテキスト(翻刻)が公開されるという。OCRによる自動翻刻であるが、その精度は、ふつうの漢字仮名交じり文であれば、すでに九割を超えている。▼これまでは用例に「出会う」ことに多くの時間を割いていたが、これからは、膨大にヒットした用例の中から、良いものを「選別」することに多くの時間を費やさねばならなくなるだろう。どちらが楽しい作業かと言われれば微妙であるが…今後の展開が楽しみであることは確かだ。▼今号も本誌初登場の方を中心に紹介する。「この三冊」は井上(泰)氏。「近世文学」は「古典」というよりも、「古典」と対話したものだ」という指摘は面白い。磯部稿は明治期の書肆において、板木所有がどのような意味を持ったかを考察する。中尾氏は、『和学知辺草』という未刊の和学入門書について、その内容の特徴を論じた。井上(敏)氏は、咸宜園の名称がどのように付けられたかについて考察する。▼若手に寄稿していただく「スポットライト」は、殷氏。勝田版『六論衍義大意』の内容とその受容の様相を分析した論文。歴史学にもまたがる、本誌ならではの人選と自負する。「名著巡礼」で丸井氏が取り上げたのは、昨年おこなった高田衛氏『上田秋成研究序説』。高田秋成学の後継は今後一段と本格化するだろう。「私の研究履歴」は山田氏。朗らかなお人柄と研究とが、しっかりリンクしていると感じた。「連載エッセイ」は、本号から飯倉氏。冒頭の話とも通じる、DHについての話題である。▼五月〜六月にかけて、九州大学で「続・雅俗繚乱」展を開催した。雅俗文庫から秘本・珍本約七十点を展示。同人の皆様には図録を同封いたしました。ご笑覧下さい。(川平)

雅俗 第二十三号

令和六年七月十五日 発行

■編集委員会

高橋昌彦 川平敏文 亀井 森
菊池庸介 菱岡憲司 天野聡一

■発行

雅俗の会
(事務局)

〒八一九一〇三九五
福岡市西区元岡七四四

イースト一号館
九州大学文学部 川平研究室内

電話 092-802-5052
e-mail: gazoku2@gmail.com

■印刷所

城島印刷株式会社

〒八一〇一〇〇一二
福岡市中央区白金二一九六